

第3回「ナンバープレートのあり方に関する懇談会」議事概要

1. 日 時 平成24年2月7日（火） 15:00～17:00
2. 場 所 国土交通省（中央合同庁舎第3号館） 4階 幹部会議室
3. 委員からの主な発言

（1）ナンバープレートの機能について

- ナンバープレートに、ハイブリッド車や電気自動車などを識別できる機能を持たせることはできないか。識別ができれば、万一、事故等が発生した場合にも、感電、電池破損等に注意して適切に車両を取り扱うことができるようになるのではないか。
- 機能の面では、様々なニーズがあるとして、コスト面その他で特に問題がないのであれば、出来るだけ多くのニーズに応えていくべき。
- 地域名の表示をなくすという判断をするのであれば、ご当地ナンバーの展開も変わってくるのではないか。
- 登録している場所を示すことも必要であると思うが、地域名を必須の表示事項としないことも考えるべき。地域名は、ある意味で個人情報という側面があり、ご当地ナンバーを推進する立場から距離を置いて考える必要もあるのではないか。
- 地域名は、そのものを表示していることに意味があり、単純に数字や記号に置き換えるだけというのはいかがなものか。
- 自動車ユーザーの立場からは、ナンバープレートに自分の意志が反映できるようにすべき。デザイン的にも面白くすることができればなお良い。
- 様々な地域名が見られることは楽しみのひとつであり、地域名は、そのものを表示すべき。
- 例えば、地域名の表示を2文字くらいのアルファベットに置き換え、ナンバープレートの余白の部分に具体の地域名や好きな言葉を表示したりすることも考えられるのではないか。
- OSSの推進を、ご当地ナンバー導入の要件のひとつとすべき。
- 次世代自動車だけに取り付けることができるナンバープレートを導入する等、次世代自動車とそれ以外でナンバープレートにおいても差別化を図るべき。

- 外国人観光客にどんどん来てもらおうとする観点からは、レンタカーを利用するような場面を想定すると、漢字表記は止めた方が良いのではないかとということもある。
- 一定の自由度を確保するためには、表示事項全体の桁数を減らすことが必要。その場合、必要十分な情報を識別できることを前提として表示事項全体の桁数を減らしつつ、視認性やバリエーションの観点から、文字を大きくし、アルファベットを用いた上で、余白の部分に自由度を持たせることとし、そのためにどのような形状が望ましいかを考えるべき。あわせて、車の魅力度を高めるためには、どのようなナンバープレートの形状が良いのかも考えてみるべき。
- ナンバープレートの見直しに当たっては、電子化によって新たな機能を付加することも考えるべき。

(2) ナンバープレートの見直しに伴う影響について

- 見直しに伴う影響が極めて大きいという場合でも、1回限りの変更で済むのか恒常的な変更となるのかで違ってくるのではないか。
- 影響にだけ縛られると、現状のままとすることが最も影響がないということになり、この懇談会で議論する意味がないことになるので、「影響を踏まえた上でこうしたらどうか」という議論をすべき。
- 見直しに伴う利用者や交通社会に対する便益を図れないか。新しい車の像が見えるのではないかという点からは、横長のナンバープレートも良いのではないか。
- 自動車は各国ごとに制度や基準がまちまちで、日本の車を海外に持っていこうとすると海外の制度や基準に合わせた形にしないといけないが、このままでは貿易の自由化がなかなか進まないで、グローバルに制度や基準が統一化されていくことが必要。
- ナンバープレートの見直しが費用対効果の面で日本経済の回復の一助となれば幸い。
- 形状まで一気に変えるとなると、自動車ユーザーの負担も大きく、現実的でないが、今後のことを考えると、現在のナンバープレートでは、あまりにも選択できる部分が少な過ぎるので、まずは、視認性に留意しつつ、ご当地ナンバー、希望ナンバー、カラーリング等の選択肢を増やしていくこととしてはどうか。